

様式1 (視察用)

会派行政視察報告書

令和4年度会派 青雲倶楽部 の行政視察研修を、令和5年1月16日(月)から1月18日(水)の2泊3日にて執り行いましたので、その概要を下記のとおり報告いたします。

令和5年1月31日

名取市議会議長 菊地 忍 様

会派名 青雲倶楽部

代表 山田 龍太郎



記

- 1 期 日 令和5年1月16日(月)～1月18日(水)
- 2 参加人員 3名 議員 熊谷 克彦、議員 大泉 徳子、
議員 山田龍太郎
- 3 視 察 先 (1) 愛知県東海市
(2) 静岡県袋井市
(3) 静岡県藤枝市
- 4 行 程 表 別紙のとおり
- 5 調 査 事 項 別紙のとおり
- 6 所 感 別紙のとおり



令和5年 青雲倶楽部視察研修行程表

日程	行程	視察先及び視察項目	宿泊
令和5年1/16(月)	<p>ANA364便 仙台空港(10:00発) ⇒⇒⇒ (11:35着)中部国際(11:52発) ⇒⇒⇒ <small>名鉄空港線・名鉄常滑線</small></p> <p>昼食後・公用車送迎 (12:17着)太田川 …………… 東海市議会視察 …………… 太田川(16:17発) <small>13:30~15:30 公用車</small></p> <p>名鉄常滑線 ⇒⇒⇒ (16:33着)神宮前(16:40発) ⇒⇒⇒ (17:26着)豊橋(17:44発) <small>名鉄特急</small></p> <p>東海道本線 ⇒⇒⇒ (18:18着)浜松……………浜松市内(宿泊)</p>	<p>愛知県東海市議会</p> <p>所在地 東海市中央町一丁目1番地 電話番号 052-603-0031 (事務局) 調査項目 1 太田川駅周辺の総合的整備について</p>	<p>北の庭THE KURETAKESO</p> <p>所在地 浜松市中区旭町7-1 電話番号 053-453-7211</p>
1/17(火)	<p>東海道本線 ホテル……………浜松(12:51発)⇒⇒⇒ (13:09着)袋井…………… <small>公用車</small></p> <p>袋井市議会視察 …………… 袋井(16:28発) ⇒⇒⇒ (17:02着)藤枝 <small>13:30~15:30 公用車 東海道本線</small></p> <p>……………藤枝市内(宿泊)</p>	<p>静岡県袋井市議会</p> <p>所在地 袋井市新屋1-1-1 電話番号 0538-44-3143 (事務局) 調査項目 1 健康マイレージ事業について</p>	<p>ホテルルートイン藤枝駅北</p> <p>所在地 藤枝市青木1-10-16 電話番号 054-645-8000</p>
1/18(水)	<p>東海道本線 ホテル……………藤枝市議会視察 ……………藤枝(16:02発) ⇒⇒⇒ <small>13:30~15:30</small></p> <p>(16:21着)静岡(16:41発) ⇒⇒⇒ (17:42着)東京(18:00発) ⇒⇒⇒ <small>ひかり512号 やまびこ153号</small></p> <p>(19:59着)仙台</p>	<p>静岡県藤枝市議会</p> <p>所在地 藤枝市岡出山1-11-1 電話番号 054-643-3552 (事務局) 調査項目 1 デジタル化の推進とデジタルバйд対策について</p>	

青雲倶楽部代表所感（全体考察）

今般、長年の課題となっている中心市街地の活性化（名取駅前街づくり）及び人口減少やデジタル化推進を踏まえ、各市の先進的な取組みについて視察研修を行った。

東海市は駅周辺について約40年間の取組みを行い継続している。駅周辺について人口減少時代ではあるがコンパクトシティを目指し積極的に事業を行っている。何よりも、人口減少時代ということで事業を縮小するのではなく、積極的な姿勢こそ学ぶべきと勘案したところである。

袋井市はスマートフォンアプリを活用し楽しみながら健康増進に努めている。デジタルを活用しての新たな手法での健康増進であり今後の参考にすべきと思慮する。また「たばこによる健康への影響から市民を守る条例」を制定しているが、背景には市民の健康増進の意識が相当高く長年の取組みの成果と思われる。今後参考にすべきと思われる。

藤枝市は、デジタルで都心づくりを行い、街の活性化、産業の活性化まで実施している。非常に先進的な取組みである。民間・大学と連携を行い、それぞれの知恵・技術を活用して取り組んでいる。特にデジタルで都心づくりを行うことは参考にすべきと思われる。

研修で得た事項を市勢の発展及び市民の健康増進等につながるよう提案等を行っていきたい。

東海市の概要

東海市は知多半島の西北端に位置し、西は伊勢湾に面し、北は名古屋市、東^はは大府市、東浦町、南は知多市に接しており、東西に 8.06 km、南北に 10.97 km、面積 43.43 平方 km で、人口は 11 万 3 千人の都市である。名古屋市の中心地区まで約 15 km 圏内に位置し、市の東部は自然に恵まれた丘陵地、中央平坦部は農地や住宅地、また伊勢湾に面した西部は愛知県の主要な工業地帯である名古屋南部臨海工業地帯の一角を形成している。

東海市には、新東名高速道路と新名神高速道路を結ぶ伊勢湾岸自動車道のインターチェンジや名古屋高速 4 号東海線があり、また、中部国際空港から 20 km 圏内であり、さらには国際産業ハブ港を目指す名古屋港の港湾区域でもあることから、東海市は陸・海・空の交通の要衝としての役割を担っている。特に中部国際空港に乗り入れる名鉄常滑線と知多半島を縦断する名鉄河和線の分岐駅である「太田川駅」は、名古屋や中部国際空港まで約 20 分という距離にあり、非常に利便性の高い地域である。

庁舎での研修



太田川駅周辺のまち

太田川駅は、明治 45 年に開業し、昭和 6 年の河和線開通以来、名古屋・常滑・半田方面に鉄道が分岐する主要な交通結節点であり、市の中心駅の役割を担ってきている。また、駅周辺のまちの特徴として、駅前立地でありながら商店街のようなものではなく、農家住宅が多く建つなど、土地利用が混在する、中心市街地らしさのないまちであった。そして、車社会への移りかわりとともに、踏切による駅前の交通渋滞や地域分断などの問題が発生してきた。このようなまちの課題を解決し、「市の玄関口」の整備を目的に、土地区画整理事業、連続立体交差事業、市街地再開発事業を三位一体として事業実施している。

調査事項

1. 太田川駅周辺の総合的整備について
〈事業実施に至る経緯について〉

土地区画整理事業により公共施設の整備改善と宅地の利用増進を図り、市の玄関口のふさわしい中心市街地の整備を図るとした。

この区画整理の大きな特徴の一つとして駅を挟んで幅員 15m~50mの広幅員な歩行者専用道路を延長約 900m計画している。ここでは、歩行者の単なる通行区間としてだけでなく、「まちのシンボル」「にぎわいや出会いと交流の場」「緑の空間」として中心市街地の核を形成するものである。

(ア) 市の核となる拠点の整備が重要課題

(イ) 太田川駅周辺は住宅地と農地が混在し、狭隘道路、開かずの踏切などの課題が山積、人口も減少の一途

(ウ) 市の中心に位置する太田川駅周辺において、市の顔となる魅力ある中心市街地づくりをすすめるため、

○土地区画整理事業

○連続立体交差事業

○市街地再開発事業を三位一体として実施することとした。

(1) 土地区画整理事業の概要

- | | |
|------------|-------------------|
| (ア) 施行者 | 東海市 |
| (イ) 施行面積 | 64.3ha |
| (ウ) 総事業費 | 約 436 億円 |
| (エ) 事業施行期間 | 平成 4 年度～令和 10 年度 |
| (オ) 合算減歩率 | 19.93% 平成 9 年仮換地済 |
| (カ) 要移転戸数 | 719 戸 |

(2) 50m歩道整備事業

- | | |
|----------|---------|
| (ア) 施行者 | 東海市 |
| (イ) 施行延長 | 603.51m |
| (ウ) 主な特徴 | |

・兼用工作物

にぎわいの核となる空間としての活用方策について検討、道路と公園の兼用工作物とすることで、道路使用許可や占用許可などの手続きが不要となった。

・都市再生推進法人と都市利便増進協定

都市再生推進法人(まちづくり東海)が主体となりエリアマネジメントを実施。にぎわい創出と活性化を図る。

(まちづくり東海)の主な収益



劇場も入る駅前の複合施設

イベント広場等周辺施設の使用料と指定管理料、市からのイベント発注

(3) 名古屋鉄道常滑線等連続立体交差事業

- (ア) 施行者 愛知県
- (イ) 事業延長 常滑線 2,045m
河和線 720m
- (ウ) 総事業費 約 371 億円
- (エ) 事業施行期間 平成 10 年度～平成 25 年度
- (オ) 踏切除去数 6 箇所
- (カ) 施設の特徴 3 階建ての立体交差構造とし、中部国際空港への輸送力増強、スピードアップに貢献

課題及び今後の取組みについて

・ 課題

(ア) 昼間人口の増加 まちの人口維持 大切である。

(イ) 交流人口の増加

・ 今後の取組み

(ア) 太田川駅西地区土地区画整理事業（組合施行）とあわせて 100ha のまちづくりの推進

(イ) 中心市街地としての魅力さらなる向上

考察

昭和 33 年（1958 年）に東海製鉄所（日本製鉄株名古屋製鉄所）を中京地区に誘致することが決まってから、海を埋め立て鉄工所ができ、鉄鋼のまちとして発展することとなった。全国各地からの急激な人口の流入によって市域が大変容をとげた。昭和 44 年 4 月 1 日上野・横須賀 2 町の合併により東海市が誕生した。新しいまちづくりが始まった。

平成 3 年、東海市の中央に位置する太田川駅周辺の総合整備事業の中の土地区画整理事業の始まりである。併せて名古屋鉄道常滑線等連続立体交差事業の中心市街地再開発事業に取り組んでいるところである。

平成 26 年度将来都市像として第 6 次総合計画を策定。平成 27 年度には、日本福祉大学東海キャンパスの開校、公立西知多総合病院の開院、名鉄太田川駅東側に「東海市芸術劇場」を有する市街地再開発ビル「ユウナル東海」と大屋根を有するイベント広場、名鉄太田川駅西側に 50m 歩道を有するイベント広場が完成するなど、「市民」、「地域団体」、「行政」などの目標を共有し、それぞれが果

たすべき責任と役割を明確にしたうえで、共に手を携えながらまちづくりを進めている。

「東海市のまちづくり」課題として上げていた、人口を減らさないようにしたいと努力目標がありました。現在進めている区画整理事業後の計画人口が張りついて、定住人口が確保できれば理想に近づいて行けると思われるが、再開発ビルにおいて、すでに空き店舗がでており、またイベント広場の利活用についても季節的な制約もある。民間の人通りは閑散としていた。人口密度の上昇がのぞまれる。

既存のまちを移転など強いて行う、土地開発と違って概ね農地（水田）であった場所に新しい絵を描いていく、その意味では行政主導もうなずける。

大学、病院も誘致し、公園も整備した。後は、太田川駅周辺の施設を広報、周知し、交流人口をアップさせることが望まれる。

名取駅東口の活性化、大きく再開発か、細かく区切ってできるところからやるか、さて、現実的に実行に移すことができるか否か。

地権者の納得のいく開発に持っていくのは至難の業である。若い世代の意見を聞くことは大切であるが、地元の住人ではない、だから客観的に見れるから良いのだというけれど。市民、地域、団体、行政 一体となれるか？やはり地権者しだい。

暗中模索 どうする。結論はまだ出てこない。



50m歩道を視察

令和4年度 青雲倶楽部管外行政視察研修報告

静岡県袋井市

健康マイレージ事業について



□日 時：令和5年1月17日(火) 13:30~15:30

□場 所：静岡県袋井市 総合健康センター第一会議室

□報告者：大泉徳子

□袋井市の概要

平成17年旧袋井市と旧浅羽町が合併。人口は87,983人（男：44,635人、女：43,348人）世帯数35,792世帯（令和4年4月1日現在）東海道新幹線、東海道本線、東名高速道路、国道1号線、国道150号線など主要交通が横断。東京へ240km、大阪へ320kmと交通条件に恵まれている。県内の人口増加率第2位、平均年齢44.7歳と静岡県平均の48.2歳に対しても2番目に若い街でもある。平成28年10月お隣岩沼

市と友好都市提携調印。就業人口は、第1次産業および第2次産業の割合が県全体と比べ高い。



◆「健康マイレージ・#2961（ふくろい）ウォーク」事業に至る背景
平成22年5月市制施行5周年を機に「日本一健康文化都市宣言」を表明。
第2次袋井市総合計画後期基本計画の三本柱は

心と体の健康 ——— 都市と自然の健康 ——— 地域と社会の健康

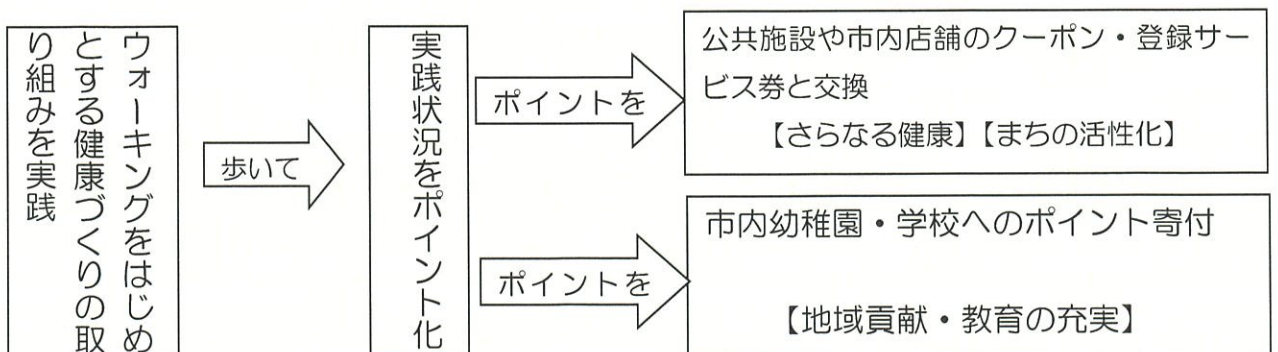
健康寿命で暮らしを楽しむまちを目指す

取り組みの一部

取
り
組
み

- ・生涯幸せに暮らす健康づくりの推進
- ・いきいきと暮らせる健康寿命の推進
- ・誰もがスポーツに親しむまちづくりの推進

◆健康マイレージ制度とは



◆健康マイレージ事業の経緯

平成18年度 市民運動としてスタート。「健康チャレンジ!!スマイルカード」を市民に配付。

平成19年度 健康マイレージ制度開始。日常的な運動習慣や望ましい食生活の定着度合をポイント化。

平成20年度 ポイント寄付を追加。

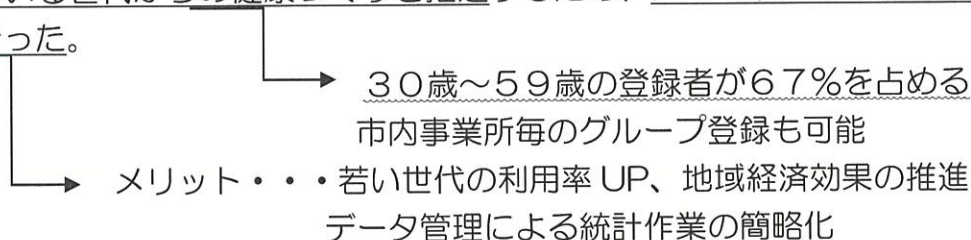
平成21年度 携帯電話からの参加が可能に。民間のサービス券追加。携帯電話を活用した「e-すまいる」を導入。

平成30年度 #2961ウォーク開始 スマートフォンアプリ開発により充実した内容に。



市が抱える健康課題の1つに、糖尿り患者および予備軍の割合が、男性55歳、女性50歳から県平均を上回る。対策として健康づくり推進へ、インセンティブの付与による日常生活の運動習慣やバランスのとれた食生活習慣の定着など、より健康的な生活習慣への動機づけ支援とその定着化を目指した。

働いている世代からの健康づくりを推進するため、スマートフォンアプリの開発を行った。



デメリット・・・OS更新に伴うアプリの定期的な更新が必要
デジタル機器の利用が苦手な人へのフォロー

◆#2961ウォークの概要

スマートフォンやPC対応の「アプリ版」と紙ベースの「チャレンジカード」の2種

- ポイント付与期間1月1日~12月31日
- ポイント交換期間4月1日~翌年1月31日
- クーポン使用期間4月1日~翌年3月31日

- ポイント獲得方法
- ①ウォーキング(2,961歩につき1P付与)
 - ②自分で立てた運動&食事の目標実践
 - ③体温、体重の入力
 - ④特定検診の結果入力
 - ⑤新しい生活様式に関する内容の実践 等

◆質疑応答

- Q. アプリの開発はどの様に行ったのか。袋井市のオリジナルアプリなのか。
- A. 袋井市オリジナルアプリを、平成 29 年度にプロポーザル方式により業者選定を行い開発。費用 1,000 万円は交付金を活用。
- Q. 市民への普及法は
- A. PR の一つに、各自治会の健康推進委員を通し周知。
- Q. ポイントに伴う歳出はどれくらいか
- A. 令和 3 年度決算で 55 万円。子育て施設へのポイント寄付も含む額である。
- Q. ライセンスは何件まで
- A. 本市開発アプリにより制限は無い
- Q. 事業所での登録数は
- A. チャレンジ事業所は 135 の事業所が登録。グループ内で歩数の順位競争などでよい刺激になっている。
- 家族での登録も可能で、離れて暮らす高齢者の見守りや状況把握の一助も担う。
- Q. 国保加入者のデータベースに反映しても良いのでは
- A. 今後の参考にしたい。

◆ 所 感 ◆

静岡県袋井市は本市と同様に、山や海、田園と茶畑。自然豊かな都市で、また東海道袋井宿や古来より伝承されてきた文化が色濃く残る地域資源豊かな土地であった。「活力と創造で未来を先取る日本一健康文化都市」をキャッチフレーズに心と体の健康だけではなく、都市環境や産業、地域づくりにも「健康」という言葉で目標を掲げている。健康イコール安心で、行政と市民が協働・共生できるまちづくりと感じられた。

特筆すべきである事のひとつに「袋井市たばこによる健康への影響から市民を守る条例」が令和 3 年 7 月 1 日に施行され、特に 20 歳未満者や妊婦の健康を守り、喫煙者排除ではなく、受動喫煙の防止や自発的な禁煙を目標に掲げている。協働として、たばこの販売を止めた事業者（ドラックストア）もあるほどだ。健康づくりを喫煙という面から大きく提案している。

紙ベースでスタートした #2961（ふくろい）ウォークは、10 年後には、時代に即したオリジナルアプリの開発により登録者が倍増。60 歳から 80 歳以上の年代もスマートフォンアプリ版利用者が圧倒的に多い。デジタルデバイス解消への一助も担っていると感じた。

生活習慣病や介護予防には個人の意識が大きく影響してくるが、行政としての市民生活の一部に健康づくり施策が成功している一例だと思う。本市においても参考とし提案して行きたい。

視察先 静岡県藤枝市

日時 令和5年1月18日(水) 午後1時30分～午後3時

視察事項 スマートコンパクトシティを目指して
デジタル化の推進とデジタルデバイド対策

藤枝市

令和4年3月現在 人口 142,998人。面積193.06km²。

議員定数 22人

藤枝市概要

静岡市に隣接、静岡市のベッドタウン

サッカー 藤枝順心高校女子サッカー全国優勝(女子・高校選手権)

藤枝MYFC J2昇格 藤枝東高校 過去に全国制覇

俳人 村越化石 ハンセン病 魂の俳人

名所 蓮華寺池公園(郷土博物館、文学館)等

視察研修

1 藤枝市の施策の柱

- ・市民の暮らしの基本となる「健康」「教育」「環境」「危機管理」を軸にDXを推進

参考 DX→デジタルの技術で人々の生活をよりよいものへ変革

2 コンパクト+ネットワークのまちづくり

①志太榛原(しだはいばら)50万人都市圏の都心づくりと藤枝市の中心市街地の活性化

②ICTで人の流れを呼び込むまちづくり

ア 人材育成、産業競争力、働き方改革の分野でICTを活用

AI,(人口知能) IoT(モノのインターネット)の活用に向けた施策を推進

イ 産学官で推進組織「藤枝ICTコンソーシアム」を設立

- ・参加団体→商工会議所、事業所、静岡産業大学等

ウ ソフトバンクと包括連携

- ・ICT、ロボットを中心にした教育の推進
- ・健康推進のまちづくり
- ・環境に貢献するまちづくり
- ・危機管理の強化

エ 次世代の人材育成について

- ・市内の中学生 プログラミング全国大会優勝
- ・全国大会 決勝8チームのうち3チーム藤枝市

- オ 新しい働き方の提案
 - ・ ICTを活用した時間、場所に捉われない働き方
 - 子育てママ等潜在ワーカーの活用
 - ワーカーのスキルアップ
- カ 地元産業の成長支援
 - ・ ICT導入の相談、診断等

3 オープンイノベーションの推進

※オープンイノベーション→自社以外の組織が持つ技術を取り込む

- ①大学や民間企業とのマッチングにより地域課題・社会課題を解決するオープンイノベーションの推進。

- ア 災害時の健康・衛生の確保
 - AI水循環技術を活用しての100ℓの水で100回のシャワーの運用実証。
- イ 都市災害から市民を守る
 - IOT水位計を設置、AIによる水位予測し、逃げ遅れゼロを目指す。
- ウ 市民の健康課題解決
 - 買い物で栄養バランスが分かるアプリを開発
 - オンラインで24時間365日受けの健康医療相談導入
- エ 地域課題解決に向けた主な内容
 - 令和2年度 タブレットを活用した橋梁点検
 - 令和3年度 蓮華寺池公園 混雑状況
 - 令和4年度 アプリによる自治会活動の負担軽減

4 スマート化に向けての市民サポート

- ①デジタルデバイド（情報格差）の解消にむけて、地区交流センターにデジタル支援員を配置
 - ・デジタルの活用不安のある高齢者の身近な相談役として、デジタル支援員を、市内13か所の地区交流センターに週3回配置

5 スマートシティへの展開

- ①4k（健康・教育・環境・危機管理）分野における先進サービスを運用しデータの連携を図り、都市全体をスマートシティ化

質→健康づくり・道路・災害等関係する部課等で、庁内の連携、横軸をどのように調整又は連携したのか

答→企画創生部情報デジタル推進課が対応した。連携・横軸という面については市長のトップダウンという面があり相当程度連携が図られている。

質→地域課題、社会課題の解決に向けてDXの推進をしているが、その解決手法について

答→従来の課題を洗い出すとともに市民の暮らしについても社会課題を洗い出し、デジタル推進は市のテーマであることから組織横断的に進めた。

質→テレワークの推進方法について

答→地方創生推進交付金を活用してテレワークをする市民の育成スキルの向上に取り組んだ。また、仕事については藤枝市内だけでなく東京にある事業所のワークができるよう取り組んでいる。マイクロソフトのウェブデザイナー等である。

質→学校でのプログラミングの授業は先生だけで対応しているのか

答→プログラミングとは論理的に思考をするということである。先生も教えるがICT支援員もサポートしている。

質→人流の解析等の手法について

答→KDDIのソフトを活用している。中心市街地でどのような人の流れがあるか等分析できる。

質→交流センターでデジタル支援員の週3回配置しているがどのように対応しているのか。

答→デジタル支援員が週3回交流センターにいるので、何か相談があればデジタル支援員が対応する。

考察

藤枝市は、地方再生スマート・コンパクトシティモデル都市に2018年に政府から指定された。デジタルで市民生活の健康・教育等の向上はもとより、利便性と魅力の向上により、定住人口、来訪人口誘導を行い、志太榛原（しだはいばら）50万人都市圏の、生活・交流の都心となるよう取り組んでいる。デジタルで、人の流れを呼び込み都心づくりを行うというその発想は大変意欲的であると思われる。

デジタルで市民の健康増進や減災等に向けての情報伝達というところまでは思考されるが、デジタル、ネットワークで50万人の交流の都心づくりにまで発展させていることは新たな思考の発見となったところである。今後研修で学んだ事項を市民の健康増進、産業活性化及び市勢発展につながるよう生かしていきたい。